令和７年度秋季企画展

代を重ねて道は伝わり　-歴代金光様を頂く-

ごあいさつ

教祖様は、江戸時代末期、社会が大きく変革していく時期に、人生の様々な難儀に出合われましたが、その中にあって実意丁寧神信心の生活をお進めになりました。そこから、人間をはじめ万物を生かし育む大いなる天地のお働きを感得され、そのお働きを親神様と仰がれるようになりました。そして、安政６(1860)年１０月には、「世間になんぼうも難儀な氏子あり、取次ぎ助けてやってくれ」との天地金乃神様のお頼みをお受けになり、家業をやめ、取次の御用に専念されることになりました。

教祖様ご帰幽の後、その尊い生神金光大神取次の道は、二代金光四神様、三代金光攝胤様、四代金光鑑太郎様、五代金光平輝様と代を重ねて伝えられ、現教主金光浩道様へと受け継ぎ現されています。

本展は、歴代金光様の墨蹟を中心に、ご使用の品々も展示します。これらの資料の展示を通して、そのご神勤の一端に触れさせていただき、みなさまの信心の糧となることを願い開催するものです。

展示資料

- 金光大神　《神名書付》　紙本墨書 本館蔵
- 金光四神　《天地書附》　紙本墨書　本館蔵
- 金光攝胤　《今天地の開ける音を聞いて眼をさませ》　紙本墨書 個人蔵
- 金光攝胤　《道理に合ふ信心》　紙本墨書 個人蔵
- 金光鑑太郎　《お役に立つことが助かること助かることがお役に立つこと》　紙本墨書 個人蔵
- 金光鑑太郎　《神もたすかり氏子もたちゆく》　紙本墨書 個人蔵
- 金光平輝　《人はみないのちと心賜はれる神のいとし子同志と思ふ》　紙本墨書 本館蔵
- 金光平輝　《生神金光大神取次道》　紙本墨書 個人蔵
- 金光大神ご使用の洗面たらい 本館蔵
- 金光四神　ろうそく立て 本館蔵
- 金光四神御手製、攝胤様御使用の櫓炬燵 本館蔵
- 金光攝胤様が大教会所で御使用の硯箱 個人蔵
- 金光鑑太郎様、平輝様がお結界で御使用の硯 本教蔵